

今年度の教育実習が終わりました

「教育実習事前事後指導」を終えて

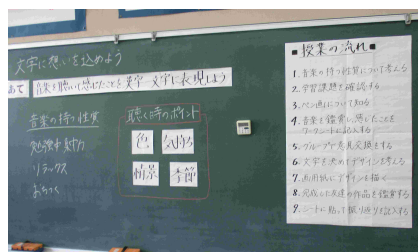
ものづくりデザイン専攻 3年 Aさん

◇ 実習の概要

- 1 実習校 秋田市立中学校
- 2 実習期間 8月28日(月)～9月15日(金) 3週間
- 3 配属学年 1年

◇ 研究授業の概要

研究授業は9月7日(木)2校時、2年生を対象に行われました。題材は「文字に想いを込めよう」で、生徒一人一人が一つの



の音楽を聴き、感じ取ったことを漢字一字にしてデザインするという内容の授業でした。先生の適切な指示と分かりやすい説明でほぼ学習指導案どおりに展開できたことと、生徒たちが迷いなく活動し、しかもとても意欲的に制作に取り組んでいたことは大いに評価できるところだと思います。また、何より笑顔を活かしながら落ち着いた雰囲気での授業していた姿が印象的でした。

研究授業で生徒たちが一番目を輝かせた場面は、実習生自身がお手本として制作した作品を紹介した場面でした。優れた作品を見て、生徒たちの制作意欲が一気に高まったことは言うまでもありません。

◇ 実習の成果

研究授業を迎えるまで、他のクラスで2回、同じ授業をしており、指導教員から「今日が一番よかった」という評価をいただいたとのこと。「授業後の反省を次の授業に生かそうとする」姿勢が、教師にとって何より大切であることを、身をもって実感してくれたものと思います。



教育実習事前事後指導は、年度初めの4回の授業後から個別指導に移行し、実習校の状況を踏まえた学習指導案作成、教材づくりに



取り組みます。実習後には教育実習報告会が開催されます。今年度は10月2日と12月4日の2回行われました。2回目の報告会では、教育実習全体を通しての講評等がありました。

◇ 尾澤勇先生から

実習の成果と皆さんの成長ぶりを実感できました。教師と生徒の思いが共鳴し合うという「啐啄同時」の言葉のとおり、授業は生徒と共に作るもの、ということに改めて認識しました。



◇ 教職支援室斎藤透先生から

教職課程にとって教育実習は最大の山場です。今日の皆さんは、その大きな山を乗り越えて教師に近づいた顔をしています。教職は教える喜びを味わい、子どもの成長を間近に見ることのできる感動のある職業です。是非多くの皆さんに目指してほしいと思います。

◇ 実習生を代表して 3年 Bさん

今ここにいる3年生全員が教育実習を終えて報告会に臨むことができたことを誇りに思います。ここまでは決して楽な道のりではありませんでした。はじめの頃は、教職課程の履修には積極的とは言えなかったのですが、今となればとてもよい選択だったと思います。授業づくりは作品制作に通じるし、人に伝える力も鍛えられました。1、2年生の皆さん、教育実習は大変ですが、その分、得られる成果はとても大きいです。がんばってください。

学校体験実習1を終えて

○はじめに

前期の「教職入門」を踏まえ、「学校体験実習1」では、「学校ってどんなしくみで動いているのだろう→生徒を育てるための指導体制とは?」「教師ってどんな仕事なんだろう→生徒の主体性を引き出す指導の工夫とは?」という二つのテーマに基づき、秋田西中学校での訪問体験実習をメインに、事前事後のグループ協議や講話などを通して、学びを深めていきました。

○三浦校長先生の講話

10月24日(火)には、秋田西中学校の三浦校長先生をお招きし、学校経営にかける熱い思いを伺いました。学校教育目標の具現化に向けた本年度の重点的な取組や先生方への具体的な働きかけ、生徒とのコミュニケーションの深め方など、校長先生自ら率先して生徒の健やかな成長を促そうとする姿勢に、多くの皆さんが感銘を受けました。



三浦純也校長先生

また、「答えは生徒が出す」「迷ったら手間のかかる方を選ぶ」「前例踏襲は後退」「何したかではなく、どうなったか」「思い込みは最大の敵」「教職員の健康なくして生徒の成長なし」など、示唆に富むたくさんのお話が心に残りました。

○秋田西中学校訪問体験実習

11月21日(火)は、秋田西中学校での訪問体験実習を行いました。授業はもちろん、登校時の生徒の受け入れ、朝の活動(読書タイム)が始まるまでの生徒の動きと先生方の働きかけ、朝の会の進め方、休み時間の様子など、学校生活全般を観察・把握することを通して、生徒の主体性を高めるために、先生方がどのような指導の工夫をしながら関わろうとしているのかを実感することができました。

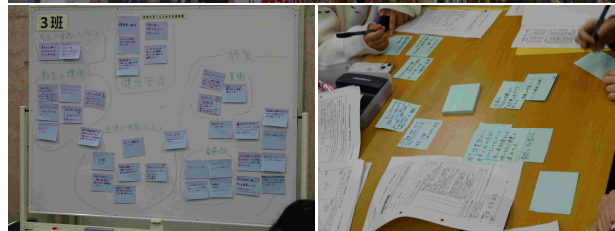
<訪問体験実習の日程>

7:40 ~ 8:00	朝の登校時間の観察
8:00 ~ 8:35	朝読書、朝の打合せの観察
8:35 ~ 8:45	朝の会の観察
9:00 ~ 9:40	はじめのセレモニー 講話「学校って?教師って?」 講師 木内 輝先生
9:50 ~ 10:40	2校時の授業参観
10:50 ~ 11:40	3校時の美術の授業参観 題材「風景に思いを重ねて」 指導者 加藤義昭先生
11:40 ~ 11:55	終わりのセレモニー

○成果と課題を明らかに

11月28日(火)以降は、学んだことを整理・共有するグループ協議を経て、最初に掲げたテーマに迫る最終レポートの作成に取り組みました。

学生の皆さん一人一人が、生徒の意欲を高め、主体性を育むために先生方が行っている指導の本質は何かを自分なりにとらえ、今後の教職課程の学びへの意気込みにつなげることができました。2年生での授業実践や3年生での教育実習に生かされることを願っています。



【学生の皆さんの感想から】

- ・日々の指導の積み重ねが、学校生活に繋がっていくことを実感しました。先生方の生徒を思った教育方針から、自分の思い描いていた理想の教師像は、まだ生徒に寄り添い切れていなかったのだと考えさせられました。
- ・目が合っても合わなくても、おはようございますと声をかけていただけで、とても胸が温くなりました。日直の方の通る声や全員がしゃんと背を伸ばす姿が素晴らしかったです。特に印象に残っているのは美術室です。おもちゃ箱をひっくり返したような、それでいて秩序のある素敵な空間でした。

学校体験実習2を終えて

1 ねらい

2年次学生を対象とする学校体験実習2では、1年次に行った「教職入門」と「学校体験実習1」の実習経験を踏まえつつ、美術科指導に焦点を絞った実習を行います。これにより、中学生や高校生とコミュニケーションをとりながら展開する授業の進め方について、実感をもって体験することをねらいとしています。

2 実習の概要

10月4日(水)	全体計画説明、グループ編成
10月11日(水) 10月18日(水)	中学校教員による講話 高等学校教員による講話
10月25日(水) 11月1日(水) 11月8日(水)	学習指導案の作成・検討 ワークシート等の作成 模擬授業の実施
11月15日(水) 11月22日(水)	中学校及び高等学校における 実習授業と研究協議
11月29日(水) 12月6日(水)	実習全体の振り返りと課題の 整理、レポート作成

3 実習授業の実際

実習授業①「紙コップを高く積む」



制限時間内に、グループで協力しながら紙コップを「高く美しく積む」という活動を通して、創造性や協働性をはぐくむことをねらいとした授業。与えられた条件の下、多くの生徒が試行錯誤しながら工夫を重ね、意欲的に取り組み、美術室のあちらこちらから歓声や拍手が聞こえる活気ある授業となりました。

実践授業②「ようこそ、私たちの展覧会へ」

国立美術館のアートカードを活用した鑑賞活動。グループで話し合いながら、提示された展覧会のテーマにふさわしい作品を選択する活動を通して、造形的な見方や感じ方をはぐくむことをねらいとした授業でした。アートカードを手に取り、作者の心情や表現の意図などについて語り合う生徒に感心しました。

実習授業③「私の色物語」

「自分自身が心を動かされた場面(出来事)はどんな色だったか」を主題に、色の美しさや混色の効果を感じ取らせることをねらいとした授業でした。生徒一人一人が自らの内面と向き合いながら、顔料やアラビアゴム、ペインティングナイフなどを使い、「オリジナル絵の具」を作成しました。



「自分自身が心を動かされた場面(出来事)はどんな色だったか」を主題に、色の美しさや混色の効果を感じ取らせることをねらいとした授業でした。生徒一人一人が自らの内面と向き合いながら、顔料やアラビアゴム、ペインティングナイフなどを使い、「オリジナル絵の具」を作成しました。

実習授業④「デザイナーズチェアの魅力に迫る」

本学図書館所蔵のデザイナーズチェアを題材とし、観察により造形的な美しさへの関心を高めるとともに、触ったり座ったりする活動を通して材質感や実用性に気付かせることをねらいとした授業。生徒が徐々に関心を高め、座り心地や使いやすさを実感していく様子がよく分かる授業でした。

4 成果と課題

授業の準備期間が介護等体験実習と重なったためにメンバーがそろわなかったり、直前に実習校が変更になったりするなど、苦労することが少なくありませんでしたが、どの班もリーダーを中心に寸暇を惜しんで協議を重ね、当日は計画に沿って円滑に授業を展開できていました。生徒の達成感や充実感を醸成するために「授業中の説明・指示は簡潔に、活動時間は十分に」を心がけていた点もよかったですと思います。

とはいえ、「声が小さくて指示が聞き取れなかった」「まとめの時間がとれず肝心なことを伝えきれなかった」「楽しい授業ではあったが、ねらいが達成されたとは言えなかった」などの課題も散見されました。

来年はいよいよ教育実習です。今回の経験を生かして頑張ってもらいたいと思います。

介護体験実習の経過報告

介護等体験は「介護等体験特例法」によって、小・中学校の教員普通免許を取得する学生に必須として課せられています。本学では教育実習の前年、2年次にオリエンテーション、事前指導Ⅰ～Ⅴ、介護等体験、事後指導の順で4月上旬から1月下旬まで集中講義として実施しています。

令和5年度は31名の学生が特別支援学校7校（表1）、15の社会福祉施設（表2）で実習を行っています。（実習校、施設は一覧表から学生が選びます）

11月中旬時点で、実習を終え4名の学生が「介護等体験日誌」等を提出しました。それらから学生の感想を一つ紹介します。

～生徒の障害の度合いや特性がまったく違ってそれを把握するのに1日目を使ってしまった。しかし、冷静に考えるとそれは特別支援学校だけではなく、すべての学校に当てはまることだと思った。～

表1

支援学校	人数
秋田県立栗田支援学校	22
秋田県立視聴覚支援学校	2
秋田県立能代支援学校	3
秋田県立聴覚支援学校	1
秋田県立支援学校天王みどり学園	1
秋田県立きらり支援学校	1
秋田大学附属特別支援学校	1

表2

社会福祉施設	人数
秋田赤十字乳児院	7
松濤園	5
自立支援センターほのぼの	3
感恩講児童保育園	3
特別養護老人ホームやすらぎホームけやき	2
秋田聖徳会若草ハイム	2
ドリームカンパニーあつみ	1
子ども発達支援センターオリブ園	1
特別養護老人ホーム中通	1
指定障害福祉サービス事業所愛心苑	1
特別養護老人ホーム南寿園	1
地域密着型介護老人福祉施設あかひげ	1
秋田婦人ホーム	1
リンデンバウムいずみデイサービスセンター	1
介護老人保健施設友愛の郷	1

教員採用試験情報

令和6年度（令和5年実施）の教員採用試験の受験者数の全国総数は、前年度に比較して約5,000人少なくなり、今年も減少傾向が続きました。この傾向はすでに10年以上に渡って継続しており、ピーク時の昭和54年の約26,000人の半分以下となっています。現時点での全校種、全教科を合わせた推計値では、3.5倍を下回る可能性が高いとも言われています。

こうした状況を踏まえ、文部科学省では教員採用試験の改革に乗り出しており、来年度からの教採スケジュールの前倒しをはじめ、自治体によっては、冬季試験の実施や3年生からの受験機会の拡大などが進められています。

受験の早期化や受験機会の複線化といった変化により、具体的にどのような影響が出てくるのかは、現時点では未知数ですが、受験者にとって選択肢が増えることは事実と言えそうです。

一方、「中学校美術」に絞ってみると、受験倍率や採用数には自治体による差が見られます。

【中学校美術の受験倍率（二次合格者数）東日本】

自治体	倍率(合格数)	自治体	倍率(合格数)
北海道	1.9 (20)	群馬県	2.3 (8)
札幌市	8.7 (3)	埼玉県	1.4 (18)
青森県	1.0 (3)	さいたま市	2.1 (8)
岩手県	2.0 (2)	千葉県	1.8 (15)
宮城県	2.4 (15)	東京都	1.3 (64)
仙台市	13.0 (1)	神奈川県	2.7 (10)
秋田県	1.0 (3)	横浜市	2.8 (12)
山形県	4.3 (4)	川崎市	2.2 (6)
福島県	2.0 (5)	相模原市	7.0 (1)
茨城県	1.8 (16)	新潟県	2.0 (2)
栃木県	2.7 (3)	新潟市	1.5 (2)

※倍率は手計算によります。

※「教職課程1月号」に、自治体ごとの速報値が掲載されています。（閲覧希望は教職支援室まで）

来年度の教採日程については、今後、各自治体の教育委員会からHPなどで公表されますので、関心のある自治体の情報をチェックしましょう。

なお、地域ブロックごとに一次試験の日程を統一している場合がありますので、複数受験を考えている場合は、注意が必要です。

東北地方は、これまでより一週間程度前倒しとなり、令和6年7月13日（土）が第1日目となります。

教員採用試験対策セミナーは“月曜5限”、「教職および博物館学芸課程センター」（教職支援室隣）で実施しています！
関心のある方は教職支援室まで！